

コア通信 Vol.60

2021年
5月発行

さわやかな風が吹き渡る季節となりました。
「コア通信」最新号のお届けです。

音楽と映像を皆様にお届けする
サウンドオフィス・コアのニュースレターです。

季節に合うおすすめの1曲



5月 みかんの花咲く丘

昭和21年8月に加藤省吾によって作詞された出来たての歌詞を、伊東行き列車内で作曲家・海沼實が作曲を行なった。当時、「リンゴの唄」が大ヒットしていた為、実ではなく花をモチーフにしている。窓にみかん畑が現れる国府津駅付近で前奏が浮かび、伊東線の宇佐美駅付近でようやく曲が完成し、現在は宇佐美駅と伊東駅で発車メロディとして聴くことが出来る。

6月 シェルブールの雨傘

1964年ジャック・ドゥミが監督をし、ミシェル・ルグランが音楽を担当した全編音楽のみで台詞無しミュージカル映画の主題歌。別れを嘆き悲しんでいる様子を歌っており、ポピュラー音楽のスタンダードナンバーとして多くの歌手に歌い継がれている。

心に響く一曲「幸せな結末／大瀧詠一」

1997年11月に発売された通算14枚目のシングル曲。木村拓哉・松たか子主演で社会現象となった恋愛ドラマ「ラブジェネレーション」の主題歌として起用された。どこか懐かしさを感じさせるメロディーと、恋する男性の想いが綴られ、ミリオンセラーを達成した。

大瀧が急死した翌年の2014年は追悼イヤーとなり、鈴木雅之、一青窈などがカバーとして楽曲を発表。近年では、1970年～80年代に細野晴臣・松本隆と共に“ナイアガラトライアングル”や、山下達郎・大貫妙子と共に“シュガーベイブ”などで活動して生まれた都会的サウンド「シティ・ポップ」が再注目されている。また今年3月には「君は天然色」をはじめとするヒット曲をリマスター音源で収録した『A LONG VACATION 40th Anniversary Edition』がリリースされた。CDショップでは特設コーナーが設置され、時を超え、世代を超え、大瀧詠一の音楽は生き続けている。

髪をほどいた 君の仕草が 泣いているようで 胸で騒ぐよ
振り返るのは 終わりにしよう 他の誰でもなく 今夜君は僕のもの

(日本音楽著作権協会(出)許諾 第2103620-101)

音楽ジャンル基礎講座 VOL.3「演歌」

元々は明治時代の自由民権運動において演説代わりに歌った「演説歌」を略して「演歌」となりました。やがて徐々に政治色は薄くなり、1960年代に現在のような曲調に定着し、悲恋や人情歌をバイオリンやアコーディオンにのせて歌うことから「艶歌」「怨歌」の字も使われることもあります。

演歌の特徴といえば、独特な歌唱法である“こぶし”。音階を激しく山並に上げ下げさせる歌い方で、こぶしをかきせるタイミングは歌手のオリジナリティであり、入れる箇所によって曲のイメージが大きく変わります。また、日本固有の「ヨナ抜き音階」を使用されるのも特徴で、「ドレミファソラシ」の4(ヨ)つ目のファと7(ナ)つ目のシを抜いた「ドレミソラ」のメロディーが主流となっています。1970年代には石原裕次郎や藤圭子、青江三奈等によるブルース演歌といった演歌の枠にとらわれない楽曲もヒットしました。最近では、若い世代の歌手も登場し、ロックやヒップホップなど他の音楽要素を取り入れた新たな動きを見せています。時代に合わせて変化してきた演歌は日本のソウルミュージックとも言えるジャンルでしょう。

<演歌と言えばこんな曲>

【カラオケで人気】 まつり/北島三郎 天城越え/石川さゆり 夜桜お七/坂本冬美
【ヨナ抜き音階】 北国の春/千昌夫 箱根八里の半次郎/氷川きよし 北酒場/細川たかし
【ブルース演歌】 ブランデーグラス/石原裕次郎 圭子の夢は夜ひらく/藤圭子

♪ 編集後記 ♪

先日仕事帰りの電車で偶然友人に会いました。コロナ前までは、ほぼ週一回ペースで会っていたのに、今ではメールのやり取りのみで、昨年11月以来の再会でした。最寄り駅までの数分の会話でしたが、妙に嬉しく感じました。お互いの趣味である野球観戦の予定を立てたので、シーズンが終わるまではまた楽しく過ごせそうです。 ♪コア美



急なご依頼にもまごころこめて対応いたします。

サウンドオフィス・コア

〒202-0012 東京都西東京市東町3-13-21
クレストコート保谷403
TEL:042-421-7150 FAX:042-422-0894
HPアドレス: <http://www.so-koa.jp>

